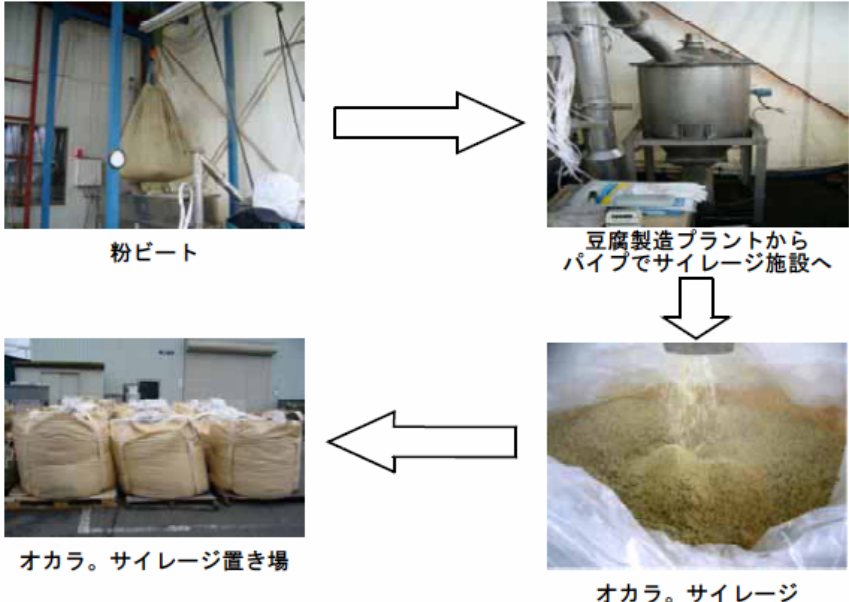


バイオマス利活用施設の概要

作成日：2007年11月16日

作成者：(株)循環社会研究所

	【施設名称】 オカラサイレージ混合施設
	【事業主体】 (株)平川食品
	【所在地】 岩手県盛岡市
	【運転開始年】 平成15年
原材料および 利用量	おから 8t/日
生産物(種類)	おから。サイレージ(飼料)
利用方法	農家、酪農団体が飼料として利用
導入目的・経緯	(株)平川食品では、大豆加工品製造後の生おからを今までも全て酪農家へ供給しているが、おからの付加価値向上と供給時に使い易く腐らない製品の開発などを目指し、29年前より「オカラ。サイレージ」を計画。平成6年頃に岩手県農業研究センター畜産研究所と連携し製品価値(家畜の母体や肉質への影響)を確認の上、おから(造粕類)とビートパルプ(ビートより糖분을抽出後残る粉末)を組み合わせた「オカラ。サイレージ」の製造を開始した。
設備仕様	サイレージ施設、ストックタンク、混合機、サイクロン 施設のシステムフロー(画像)
	 <p>粉ビート</p> <p>豆腐製造プラントからパイプでサイレージ施設へ</p> <p>オカラ。サイレージ置き場</p> <p>オカラ。サイレージ</p>

稼働状況	<p>おから搬送時の空気の力を利用するので、新たにエネルギーを必要とせず、わずか40Wの電力で稼働。</p>
経済性関連データ	<p>施設整備費用 12,000千円(5年間で) 現在、価格¥10/kg(工場渡し、運賃別)で収支はほぼ±0である。</p>
導入効果	<p>畜産堆肥を大豆栽培に使用し、大豆飼料を畜産で使用するという、酪農家と大豆農家を結ぶ効果的な循環システムが構築された。結果、環境への配慮にもつながり、企業の社会的使命を果たしている。また、豆腐を作るために使用している材料は非遺伝子組み換え大豆を使用していることから、安全な飼料の供給ができています。</p> <p>岩手県農業研究センター畜産研究所との給餌試験で、牛1頭あたり10kgの濃厚飼料の代替でおからサイレージを与えた場合、従来の飼育費と比べて1割の経費節減が得られるという試算が、5年前に得られた。</p>
運営上の課題	<p>処理施設に関わる収益は、「オカラ。サイレージ」に取り組むことにより人員・資材経費と同一ベースとなっている。今後は、豆腐の絞り汁を飼料化することによる排水処理施設の負担軽減と、売れ残り豆腐等についても再生化を検討している。</p>
備考・参考資料	<p>「新たなバイオマス・ニッポン総合戦略にむけて～東北地域におけるバイオマスの取組～」(平成18年10月),東北農政局発行 を元に情報追加(平成19年11月)</p>